

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0570102624		
法人名	医療法人 久幸会		
事業所名	もみの木の家		
所在地	秋田市下新城野字琵琶沼158-6		
自己評価作成日	平成22年8月20日	評価結果市町村受理日	平成22年12月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kaigo-service.pref.akita.jp/kaigosip/Top.do">http://kaigo-service.pref.akita.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉協議会		
所在地	秋田市旭北栄町1-5		
訪問調査日	平成22年9月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

秋田県内初に開設した6名の1ユニットのグループホームです。敷地内には病院、老人福祉施設、保育園、配食サービス等、また近くには系列の歯科、整形外科があり、医療、福祉サービスの連携がとられています。職員、入居者とも女性のみで、穏やかに楽しく生活しています。研修の受入、地域のボランティアの協力も多く、法人の職員、保育園児、地域の人やご家族の面会もあり、開放的な雰囲気です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

医療法人が経営主体である県内初のグループホームであり、医師や看護師による24時間の医療体制、健康管理、緊急時の連絡体制を確立しており、利用者と家族の安心につながっている。また、内外の研修参加が法人内で計画的に行われており、職員の資質向上が図られている。法人として多くのボランティアとのつながりがあるため、日頃からボランティアの協力が得られている。職員は常に思いやりや優しさ、いたわりの気持ちでゆったりと利用者に接しており、利用者一人ひとりの「思い出」を大切にしながら日々の支援に努め、笑い声の絶えない家庭的な雰囲気のある事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の運営方針と共に理念を作り、玄関に掲示し、出勤時は確認し常に意識するようにしている。またミーティング時や折にふれ話し合い、理念に添った実践につなげている。	法人内のグループホーム共通の理念と事業所としての運営方針があり、家庭的な環境の下で地域と共生しながら生活できるよう支援されている。理念と方針は玄関に掲示し、出勤時に確認しながら日々のケアにつなげている。 また、短大の実習生を受け入れたのをきっかけに、今年度に職員一人ひとりが自分の介護理念を具体的に作り、どういう気持ちでケアにあたるのかを再確認している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	外で出会った時には挨拶をしあったり、除雪作業の手伝いをしたり、季節の山菜を持ってきていただいたり、家庭菜園で収穫した野菜をお返ししたりというおつきあいをしている。	町内会に加入しており、近隣の民家から訪問を受けたり野菜をもらうほか、ボランティアがポーチ作りを手伝ってくれたり日頃から交流がある。 また、法人の職員用保育園の園児が遊びにきたり、法人全体の祭りに参加するなど、経営母体の大きさを生かして外部と積極的に関わっている。	地域包括支援センターと連携して認知症サポーター養成講座を開催するなど事業所の機能を地域に還元したり、認知症サポーターによる支援を取り入れていくことを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	高齢者の健康管理や認知症の情報等を運営推進会議の参加者を通じて発信している。認知症に関する書籍の貸し出しを町内用の新聞に掲載している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	参加者は積極的に忌憚ない意見を出し合っている。話し合いを行なうことによりサービス向上を目指している。	年6回開催しており、委員の意見から入居一時金が不要な旨をパンフレットに明記するなど、ミーティングで意見交換のうえ、具体的にサービスの質向上に生かしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	包括支援センターの職員には運営推進会議に出席をしてもらっている。法人事務局や相談員と連携を図りながら連絡している。	生活保護受給者に対する定期的な民生委員の訪問がある。 また、地域包括支援センターからの紹介で、虐待のあるケースを入居につなげたりしている。	地域包括支援センターのほか、行政担当者とも日頃からの協力関係ができるよう期待したい。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は8時半から17時半まで施錠していない。センサーも設置しているがここ数年使用していない。 法人内外の身体拘束に関しての各種研修に参加し、スタッフ間で共有し、意識を高め防止に努めている。	法人内の内部研修でテーマに取り上げ、職員間で共通認識を図っており、事故防止のためセンサーマットが必要な方には、ケアプランにかかげ家族の同意を得ている。 また、日中は玄関に鍵をかけず、見守りを徹底し、一人ひとりの気分や状態をきめ細かくキャッチしながら、外に行きたい方には付き添い対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内外の研修に参加し、他のスタッフにもフィードバックしている。常に意識を高め、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域権利擁護事業や成年後見制度等法人内外の研修に参加し、他のスタッフにもフィードバックする機会を設けている。 また、法人の相談員と密接な関係を保ち、支援に結び付けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者と相談員と共に説明を行い、理解、納得をいただけるよう努めている。 開始後も、こちらから不明点などないか問い掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱の設置と、公的窓口の掲示を行っている。また日頃から話しやすい雰囲気を作り、気軽に要望を話してもらおうよう心掛けている。	玄関に意見箱を設置し、苦情相談窓口を掲示しているほか、面会時などには声をかけ、普段から何でも話してもらえよう雰囲気づくりに努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年間の事業計画の作成時には、全職員と話し合いの場を設けている。	ミーティングや勉強会等で意見を聞くなど、日頃からコミュニケーションを図るよう心がけており、年間事業計画作成時には職員の意見や提案を反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に自己評価し、個々の状況を把握している。それを基に面接を行って、向上心につながるようアドバイスがある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経験年数や職員のレベルに応じた法人内外の研修に参加するよう働きかけがある。その際は勤務扱いとなり費用が発生する場合は法人が負担している。その他OJTも積極的に取り入れている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	秋田市グループホーム連絡会の立ち上げから関わり、理事として勉強会や交流会を開催し、職員も参加している。法人内の3つのグループホームとの交流も多い。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	話やすい雰囲気を作り1対1で顔を見ながら話を充分聞くことにより、信頼関係を築くよう心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の話を傾聴、受容する事で、早期の段階から信頼関係を築くよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている <b>※小規模多機能型居宅介護限定項目とする</b>			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事等本人の得意なことや馴染みの習わし等を学んだり、干し柿や漬物等を共に作りながら教えてもらう場面がよくある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	希望や意見等を日頃から気軽に言えるような関係を築くよう努力している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人知人が気軽に訪ねられるような雰囲気作りを心掛け、ゆっくり会話ができるよう環境を整えている。また、思い出の場所や店等を訪ねるレクリエーションを取り入れている。	回想法を取り入れ、利用者一人ひとりの生活歴を大切に、「思い出レク」と称して思い出の場所を話題にしたり、訪れたりしている。 また、家族や親せきとの墓参りなど、外出や外泊ができるよう配慮し、家族や友人、知人、さらには実習生や退職した職員も招いて事業所でパーティを開くなど馴染みの関係が継続するよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士が良好な関係を築けるよう、常に見守りして、場合によっては仲介している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病棟に入院後も時々顔を出し様子を見させてもらっている。また契約終了後のご家族が、その後も運営推進会議に協力してくれている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話の中から本人の希望を聞いたり、生活歴やご家族からの情報などを通し、本人の立場にたち支援に活かす努力をしている。	利用前のアセスメントで情報を得ているほか、日常の会話の中から本人の思いや希望をくみとるように努め、職員間で話し合いながらケアに生かしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や本人から、場合により担当ケアマネから生活歴を聞き、1人ずつケースファイルにまとめている。それまでの生活スタイルを可能な限り継続し、自分らしさが引き出せるよう情報を共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の申し送りやカンファレンス等で現状の把握に努めている。能力を活かしつつ、安心して、より良く生活できるよう、常に状態観察をしながら支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	センター方式やケアチェック表等を利用し、アセスメントを行っている。情報はスタッフ間で共有できている。月1回のモニタリングと、必要時と月1回、スタッフ全員でカンファレンスを行い、それを介護計画に活かしている。	センター方式やケアチェック表等によるアセスメントを行い、毎月のモニタリングや状態変化時必要に応じたカンファレンスにより介護計画に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の行動記録、フォーカスチャータリングを記録している。それを基に申し送りやミニカンファレンスを行い、実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる <b>※小規模多機能型居宅介護限定項目とする</b>			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的な地域ボランティアによる訪問や、レクリエーション時の付き添いをしてもらっている。地域の中学生のボランティアもある。		
30	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前に協力医療機関等の説明を行っている。希望を伺い、病状に応じた病院を受診している。受診の際には他部署の送迎車輛の協力を得ている。	隣接する同法人の病院が協力医療機関となっており、定期や必要時の受診がスムーズにできるよう連携しているほか、利用者の希望や病状に応じて他の医療機関も受診ができるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常よりささいな変化も見逃さないよう状態観察をおこなっている。毎日看護師に状態報告や相談し、その上で受診している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	担当相談員や看護師と連携し、情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の段階で、主治医や相談員を交え、終末期ケアについての話し合いが、もたれている。変化に対しては、主治医、看護師、相談員等と連携しつつ対応している。	重度化した場合、「本人や家族の希望により事業所での生活が継続できるように最大限の対応を行うが、原則として看取りは行わない」という対応の指針が作られており、入居時に同法人の協力医から家族へ納得されるまで説明のうえ、全職員で対応を共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成している。瞬時に対応できるようシュミレーションを行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に法人と合同で災害避難訓練を実施している。緊急時には法人からの協力体制もある。ホーム内でも年間計画を立て、避難訓練を実施している。	危機管理マニュアルを作成し、日頃から緊急時の対応について職員間で話し合い、共有している。 また、警報機が鳴ると法人内の病院などにも一斉に伝わり、避難する体制ができており、避難訓練も合同で実施している。	避難訓練への地域住民の参加や、スプリンクラーの設置についても取り組みを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の尊厳を尊重した対応に努めている。個々の状況に応じ、言葉の使い方や1対1での対応等工夫して行っている。	個人情報には棚に保管し、手の届く場所には鍵をかけるなどして取扱いに配慮している。 また、利用者一人ひとりの反応を注意深くキャッチしながら、動きに合わせて目立たずさりげない言葉かけや対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々に合わせ、穏やかな対応をして、感情表現しやすい関係を作っている。日々の生活の中から希望を引き出すよう心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務内容に余裕をもたせ、業務優先ではなく、個々のペースや希望に添った支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している <b>※認知症対応型共同生活介護限定項目とする</b>	法人内の美容院の利用の援助をしたり、希望によりスタッフが髪染めを行っている。個々の状況に応じて、本人の希望する洋服を、季節に合わせて着用できるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜切りや皮むき、配膳、後片付け等個々に応じて共に行っている。職員は共に食事をし、和やかな雰囲気になるよう会話している。必要に応じ、さりげない援助をしている。	利用者と職員がともに盛り付けや片付けを行い、同じテーブルを囲んで楽しく会話しながら食事の雰囲気づくりに努めている。 また、献立に利用者の好みを取り入れ、外食や行事食も取り入れているほか、時には屋外で食べるなど食事を楽しめるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量は毎食事記録し把握している。個々の状態にあわせ、量や形態に配慮した食事を提供するよう心がけている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自力で口腔ケアが行えるよう支援し、不十分などところがあれば介助している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し状況に応じて声掛けや誘導を行っている。	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、さりげなく声をかけたり歩行不安定な方には手を差し伸べるなど、全員がトイレで排泄できるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便習慣を把握し、確実に排便されているか記録している。繊維の多い食品、ヨーグルトや牛乳、朝食前の冷水等を取り入れ、軽運動を行い、便秘の予防に日々努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	健康状態を確認した上で、週に2～3回は入浴してもらっている。手作りののれんを掛けて、「もみの木温泉」と名付け楽しんで入浴してもらえるよう工夫している。拒否がみられても、声掛けやタイミングの工夫で対応している。	浴室に「もみのきおんせん」という手作りののれんをかけ、一人ひとりの健康状態や介助量、入浴時間などの希望に応じて支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状態に応じて、自室でゆっくり休んでいただけるよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容を記録し、目的や用法について理解している。看護師との服薬確認を行い、症状の変化がないか観察し、変化を見逃さないよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や、得意とすること、できる事等を把握しながら、生活の色々な場面で能力を発揮でき、自信と生きがいを感じられるようよう支援している。また、毎日の体操や季節の行事やレクリエーションを取り入れている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している <b>※認知症対応型共同生活介護限定項目とする</b>	天気の良い日は、散歩や日光浴をしたり、戸外での茶話会を積極的に行っている。また、地域のボランティアの協力を得て、月平均1～2回外出レクリエーションを行っている。その際には、懐かしい店や馴染みの場所等、希望を取り入れるようにしている。	散歩や日光浴、事業所前での茶話会、買い物、ドライブ等、日常生活の中で外に出る機会を多く設けている。 また、レジャーでの外出時には、1対1での対応ができるよう、外出ボランティアの協力を得るなど工夫している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	レクリエーションでの買い物時や、散歩がてらの病院売店での買い物時には、一人一人の力に応じて使用できるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば支援しながら電話してもらったり、年賀状等をだしてもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花々や季節感を味わう飾り物、手作りの壁掛けやのれん等で安心して心地よく過ごせる工夫している。快適な環境を保つよう日々心掛けている。	ホールには大きな窓から光が入って明るく、季節が感じられるものや利用者手作りの小物、カレンダーなどを飾り、安心して居心地よく過ごせるよう配慮している。 事務室を設けず、常に職員が利用者とともにホールで過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている <b>※認知症対応型共同生活介護限定項目とする</b>	居間にソファーや椅子等を多めに置き、それぞれが気分に応じて過ごせるよう配慮している。少し離れた食卓も使用している。時には居室で話し合う場面もみられる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたタンスや、家族の写真、思い出の品等本人が見覚えのある物を置き、心地よく過ごせる居室にしている。ご主人の写真に毎日水をあげ手を合わせる姿が見られる。	全室掃き出し窓となっており採光が良く、寝具、写真等なじみの物を持ちこんでもらい、一人ひとりが居心地よく過ごせるよう工夫している。 持ち込みの少ない方については、相談しながらその人に合った生活用品や日用品を使うなどして、温かい雰囲気を出せるよう努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレなどには手作りの案内を掲示している。ホーム内はバリアフリーで、廊下やトイレ内浴室には手すりが設置し、安全に身体機能を活かせる環境作りを心掛けている。		